

感謝所頭年

榎本樹邨名誉会長代行揮毫

中日新聞 平成31年1月1日号より転載

新年のご挨拶

中日会報

公益社団法人 中日書道会
編集事務局 名古屋市中区名駅二丁目45-19
〒450-0002 室番 C000
桑山ビル8階 電話 (583) 19100
FAX (583) 19101
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷



名誉会長 海部俊樹

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。わたくしは、今年も晴れやかな気持ちと共に、健康で穏やかな米寿の新春を迎えることができました。皆様にとりまして、平和でよき年であることを願っています。

さて、本年四月三十日にはいよいよ今上陛下のご退位と、五月一日には皇太子殿下のご即位を迎えることとなりました。ここに至るまでには様々な努力が積み重ねられてまいりました。国政に携わってまいりましたが、感概深いものがあります。特に、わたくしが首相在任中に陛下の即位の礼を執り行ったことが思いだされ、一層思いを深くしております。いざれにしましても、ご退位後の天皇皇后両陛下の安寧な日々と、新しい天皇皇后両陛下の力強いご活動を祈念したいと思います。

「平成最後の…」という言葉

することが多くあります。加えて、平成時代の思い出を振り返る動きも各方面で広がっているようです。一時代の区切りを意識したこととの現れと思います。新しい元号はどのようなものになるか予想はできませんが、希望に満ちた明るい時代となつてほしいものです。とりわけ昨年は多くの自然災害が発生し、各地に多大の被害をもたらしたことは記憶に新しいところでもあります。被災地の一日も早い復興と、被災された方々の平穏を心から祈っております。

ところで、本会は今年創立八十五年を迎えました。先賢の英知によって誕生した本会の歴史は、まさに中部書壇の歴史そのものであると思えます。本会は、書道の振興・普及と地域文化の発展に寄与することを主たる目的として掲げ、活動を続けて今日に至っております。今後も目標の達成に向けて、たゆみない努力を続けていきたいと思います。折しも創立八十五周年にふさわしく、関根玉振理事長のもと記念事業も計画されていると聞き及んでおります。成功裏に開催されることを期待するものです。また会員の皆さんもどうか書道に精進され、何卒本会のためにご活躍されますようお願いしております。



理事長 関根玉振

明けましておめでとうございます。本年は、新たな年号へと変わる節目の年として、今まで以上に夢が持てる年となればと願っております。昨年は、名誉副会長の安藤滴水先生が、平成三十年度地域文化功労者文部科学大臣表彰の栄をお受けになられ、誠にめでたうございました。お慶びを申し上げます。

さて本号では、平成三十年間の本会歩みを振り返り、年頭のご挨拶にしたいと思います。

- 平成元年 創立五十五周年事業、世界デザイン博参加「心の書夢の書展」開催。
- 平成二年 愛知県芸術文化選奨文化賞(団体)受賞 書道の普及振興が認められる。江蘇省、南京市、南京博物院との書道交流が始まる。中国書壇を代表する先生方との交流・展覧会を開催、現在へ継承。
- 平成四年 元内閣総理大臣、海部俊樹先生を名誉会長へご推戴、盤石の態勢が整つ。

目次

- 1 海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」
榎本樹邨名誉会長代行揮毫
関根玉振理事長「新年のご挨拶」
安藤滴水名誉副会長「年頭所感」
名誉会長代行 榎本樹邨先生
第六十三回現代書道二十人展 ご出品
名誉副会長 安藤滴水先生
平成三十年度地域文化功労者
文部科学大臣表彰
- 2 平成三十年度 第二十二回
書の魅力 公開講座
第二十七回 書展
改組 第五回 日展入賞・入選者
第六十九回 中日書道展 出品規程(抜粋)
日程表
同 募金参加者名簿
- 3 二〇一八チャリティ「愛の募金」
募金参加者名簿
- 4 平成十二年 創立六十五周年事業「日韓交流書展」日韓開催。韓国書壇と交流。
- 5 平成十二年 中日書道展五十回記念「ミレニアム大作書展」開催。『社中日書道会代表作家展』南京開催。
- 6 平成十三年「時代を拓く大作書展」開催。
- 7 平成十七年 愛知万博出展参加「世界のSho・日本の書」開催。チャリティ「愛の募金」開始、現在へ継続。
- 8 平成二十年 第五十八回 中日書道展より若年層出品(十五歳以上) 導入。若い世代へ門戸拡大。
- 9 平成二十一年 創立七十五周年事業「筆墨乱舞「わっ書い」開催。
- 10 平成二十三年 公益社団法人格を取得。公益性をより重視する資格団体となる。
- 11 平成二十六年 創立八十周年事業「いっ Sho 懸命楽しい書」安藤美姫さんを迎え大作揮毫会実施。書の文化をアピール。
- 12 平成二十七年「時代を拓く大作書展」開催。
- 13 平成二十九・三十年「愛知県・江蘇省友好書道展」南京・名古屋開催。

●平成二十九年「愛知県・江蘇省友好書道展」南京・名古屋開催。これらの歴史の中には、先人の叡智と努力、そして中国伝来の『書』を日本独自の楷・行・草・かな・調和体・篆刻へと昇華させて来た世界に誇れる文化が有り、それらを守り伝えることが私達の使命と考えており、新たな時代に相応した創造性が発信出来るよう、皆様方と共に努力し歩んで行きたいと願っております。

安藤滴水名誉副会長 年頭所感



さと美しさが見る者の心に訴えてきます。中日書道会は毎年、中日書道展(高大生含む)、七十才以上を対象とした寿書展、中日書きぞめ展(幼・高

が直接手を取り美しい文字、力強い文字の書き方を学び、書く楽しさ喜びを満喫してくれましたことと思います。参加した70%の生徒が書道塾に通っていないのには驚きでしたがこの行事は今年もまた継続される事を願っています。書はいつの時代にあっても幅広い年代に愛され生涯教育においても冠たるものです。今年も普及活動につとめてまいります。

心に残る手書き文字

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 安藤 滴水

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。中国から日本に伝来した王羲之、顔真卿らの書、また日本の空海の書などは書道史上不朽の足跡を残しています。現代IT全盛の時代であるからこそ手書き文字の温か

校)等三つを柱として活動を行ってまいります。昨年初めて「夏休み毛筆体験教室」を開催、小中学生を対象に講師の先生

中日新聞 平成31年 1月 1日号より転載

本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

第六十三回 現代書道二十人展 ご出品

会 期 平成三十一年二月二十三日(土)～三月三日(日)
会 場 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

平成三十年度

第二回理事会

十四時 より

第一回評議員会

十五時三十分より

講演会

十六時三十分より

講師 書跡史学者 増田 孝氏
演 題 「本阿弥光悦——人と書」

平成三十一年二月三日(日)

名古屋観光ホテル

祝

名誉副会長 安藤 滴水 先生

平成三十年度地域文化功労者

文部科学大臣表彰

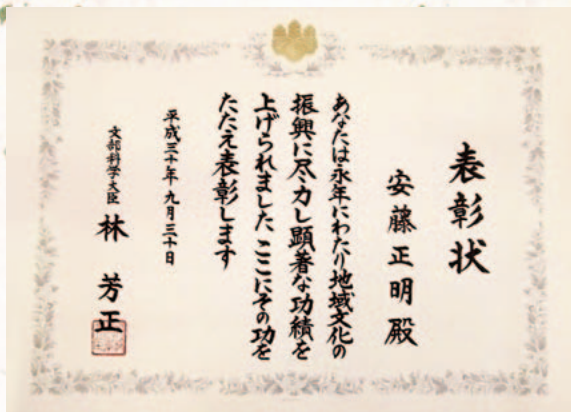


功績概要

永年にわたり、書家として優れた活動を行うとともに、公益社団法人中部日本書道会名誉副会長等を務め、地域文化の振興に貢献している。
(文化庁・平成三十年度地域文化功労者表彰ホームページより引用)

書 歴

- ・ 日展会友
- ・ 毎日展審査会員
- ・ 全日本書道連盟評議員
- ・ 愛知県芸術文化選奨受賞
- ・ 愛知県教育文化功労者表彰
- ・ 蘭輝会代表



表彰状



ご受賞記念品の木盃

平成30年度 第22回 書の魅力 公開講座

「平成三十年度公開講座」を終えて

研究部長 武内峰敏

十二月二日(日)、名古屋電気文化会館イベントホールにて「第二十二回 書の魅力 公開講座」が開催されました。講師には、本会常任顧問の伊藤昌石先生と理事の鈴木立齋先生をお迎えし、一五十余名の方にご参加いただきました。

伊藤先生からは「三体千字文から学ぶ」と題し、膨大な数の楷行草を覚える為の文字の組み立て方についてのお話をいただきました。流派に拘らず誰もが納得できる手書き文字を身につける為の理論に、熱心にメモを取りながら聞き入る参加者の姿が印象的でした。

鈴木先生は「私と呉昌碩」の演題で、清代最後の文人といわれる呉昌碩への溢れる思いを熱く語られ、その作風を取り入れた先生ご自身の貴重な作品と側款の資料の素晴らしさに、暫し篆刻の世界に引き込まれました。大変充実した有意義な講座となり、伊藤先生、鈴木先生に深く感謝申し上げます。

文責 清水春蘭



鈴木立齋先生



伊藤昌石先生



平成三十年度壽書展を終えて

第二事業部長 馬場紀行

本会の満七十歳以上(千四百五十八人)を対象として毎年開催されます第二十七回壽書展は十一月二十七日から十二月二日まで中区電気文化会館にて開催されました。本年は会員百五十人、会員外八人の合計一五八人の出品があり、名誉会長海部俊樹先生の「誠心 活龍不滯水」、名誉会長代行樽本樹邨先生の「花春」の額作品をはじめ、漢字一〇〇点、かな二十一点、近代詩文二十七点、篆刻十点と内容は多彩で、プロ書家の熟達練磨された作品から書の愛好家の微笑ましい作品まで多種多様、幅の広い作品の数々が陳列され、長年にわたり書を生活の糧とされてきた方々のお気持ちが伝わる展覧会です。来場者もお知り合いの方の作品を目当てにお越しならぬながら色々な作品が鑑賞出来て、楽しまれたことと推察

します。しかしながら、公益性の有る催事として公募ではなく開催することを旨としつつも出品者は当該の一〇%強であり、会場が地下鉄伏見駅から徒歩四分という利便性と秋の心地良い季節開催を鑑みると入場者が七百八十人ではやや寂しい感は否めず、今後は更に多くの方々にご出品、ご来場して頂くように一考すべき展覧会であった。

次回開催予定
第二十八回壽書展
十一月十二日(火)〜十七日(日)
電気文化会館五階東・西ギャラリー



会場風景

改組新第五回日展 入賞・入選者

日展特選を受賞して



梶山盛涛

この度、改組新 第五回日展におきまして、特選を拝受できましたことは、身に余る光栄でございます。

これも偏に、ご指導いただいた師匠はじめ諸先輩方のご高配の賜と深く感謝いたしております。

思い起こせば五十年前、師匠との出会いが書の道に進むきっかけとなりました。中学高校では、諸先輩方からの温かいお導きをいただき、大学進学後、本格的に古典追求に取り組み、師匠の指導を仰いでまいりました。

受賞作品は、長年取り組んでまいりました清末の文人「趙之謙」の躍動感溢れる円転滑脱な運筆法に、気満に充ちた線質と北魏書の筆庄のある重厚な線質を加え、墨の潤渇にリズムを創り、文字の大小、行間字間の響き合いから、紙面全体の余白美を意識しつつ制作にあたりました。

今回の受賞を励みとして研鑽に努め、更に精進していく覚悟であります。今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



特選 王阮亭詩

- (特選) 梶山盛涛

(入選)

愛知県

三重県

- 溝口子静

- 家田馨子

- 後藤啓太

- 安田雪篁

- 故岡本苔泉

- 中川瑞風

- 鈴木香鵬

- 馬場紀行

- 磯貝弘子

- 小島瑞柳

- 佐々木宏潤

- 鈴木裕子

- 柘英峰

- 中野玉英

- 水野佑華

- 栗田江泉

- 小野田景月

- 衣川彰人

- 清水美智子

- 錫澤澄江

- 草野慧泉

- 津田秋月

- 水野峯翠

- 片山清洲

- 高桑嚴風

- 山際雲峰

- 磯谷凄聴

- 今田昌宏

- 鎌倉彩風

- 酒井青桐

- 片岡秋華

- 石黒直子

- 伊藤龍仙

- 伊藤草華

- 加藤秀慧

- 小野田美晴

- 丹羽春蘭

- 下村汀柳

- 深谷恵庭

- 福岡林泉

- 岡田恵鶴

- 八木敬子

- 横山夕葉

- 伊藤文恵

- 坂九塔

- 家田翠徑

- 大木青嵐

- 近藤青洸

- 佐藤琉華

- 千葉晨翠

- 戸田青楓

- 中川瑞玉

- 星野蘭雪

- 足立麗華

- 萩原祐子

- 上小倉積山

- 高木紅舟

- 渡辺悠記子

- 馬場紅雲

- 塚田俊可

- 黒川虚宇

- 原田南鳳

- 光澤閑石

- 吉澤有岐子

- 石原清至

- 日比野妃扇

- 今井桃丘

- 今田紅溪

- 鈴木史鳳

- 小島岐香

- 鏡千裕

- 井口方燕

- 伊藤玉冰

- 岡野敬子

- 山本雅月

- 大嶋由美子

- 山中みね子

- 竹内清泉

- 東京都

- 長谷川鸞卿

- 原田溪華

- 長野県

- 静岡県

- 小野蹊泉

(○印は初入選)

※掲載のお名前は日展ホームページ発表での名簿順となります

第六十九回 中日書道展出品規程（抜粋）

一、会場・会期

▼愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー
依嘱以上の役員（第一～五部全作品）
二〇一九年六月 十二日（水）～六月 十六日（日）

▼電気文化会館 東・西ギャラリー
無鑑査作品（第一部）
二〇一九年六月 十一日（火）～六月 十六日（日）

▼名古屋市民ギャラリー栄
無鑑査作品（第二～五部）
二〇一九年六月 十一日（火）～六月 十六日（日）

▼名古屋博物館

一科作品 二〇一九年六月 十八日（火）～六月二十三日（日）
二科作品 二〇一九年六月二十三日（日）～六月 三十日（日）

※愛知県美術館ギャラリー 創立八十五周年記念特別展示
※名古屋市民ギャラリー栄 第六十九回中日書道展
上位作品（八十五点）を展示

一、出品部門

第一部 漢 字 第二部 かな 第三部 近代詩文
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上（平成十六年四月一日生まれ以前）の者とする。（但し十五歳から二十一歳までの者（平成九年四月二日生まれから平成十六年四月一日生まれまで）は証明書（免許証、学生証、保険証等のコピー）を提出する。）

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。（止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること）

一、審査日程

二科作品 二〇一九年五月 十日（金） 午前九時十分～
一科作品 二〇一九年五月十一日（土） 午前九時十分～
特別賞選考 二〇一九年五月十二日（日） 午前九時十分～

一、審査員

特別賞選考委員は、依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒 賞

優秀作品に左記の賞を贈る。
・二科作品 —— 二科賞（二点）・奨励賞（二点）・佳作（〇・五点）

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。
・一科 昇 格 —— 二科において総点三点に達した者
・無鑑査昇格 —— 一科において総点五点に達した者
・依 嘱 昇 格 —— 無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
・二科審査員昇格 —— 依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

一、授 賞 式

二〇一九年六月十六日（日） ナゴヤキャッスル 午後三時半より（予定）
二〇一九年六月十六日（日） ナゴヤキャッスル 午後六時より
〔参加は二十歳以上に限る。〕

一、祝 賀 会

二〇一九年六月十六日（日） ナゴヤキャッスル 午後六時より
〔参加は二十歳以上に限る。〕

一、入 場 料

三〇〇円（小・中・高校生は無料）、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十二日（金）までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。
※正会員（展覧会役員及び一科会員）の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。
搬入・搬出については、取扱店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。
※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。（申請最終締切三月三十一日）

一、新規出品の十五歳から二十一歳

（平成九年四月二日生まれから平成十六年四月一日生まれまで）の方は、証明書（免許証、学生証、保険証等のコピー）を出品票に添付して下さい。

一、出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者（正会員）の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

一、授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十九回中日書道展作品展示会場および会期

科	一	無鑑査	二科審査員	特別審査員
一	一～五部 全作品	一部作品 (入賞作品を含む)	二～五部作品 (入賞作品を含む)	一～五部 全作品
二	一～五部 全作品	名古屋市民ギャラリー 東・西ギャラリー	名古屋市民ギャラリー 栄	愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー 8F
	9:30～17:00 ※最終日は15:00まで	9:30～18:00 ※最終日は16:30まで	10:00～18:00 ※最終日は15:00まで	10:00～18:00 金曜日は10:00～20:00 ※最終日は16:00まで
	6/11(火)			6/11(火)
	12(水)			12(水)
	13(木)			13(木)
	14(金)			14(金)
	15(土)			15(土)
	16(日)			16(日)
	17(月)			17(月)
	18(火)			18(火)
	19(水)			19(水)
	20(木)			20(木)
	21(金)			21(金)
	22(土)			22(土)
	23(日)			23(日)
	24(月)			24(月)
	25(火)			25(火)
	26(水)			26(水)
	27(木)			27(木)
	28(金)			28(金)
	29(土)			29(土)
	30(日)			30(日)

※1 創立八十五周年記念特別展示
 ※2 第六十九回中日書きぞめ展 上位作品を名古屋市民ギャラリー栄において六月十一日(火)～十六日(日)まで展示します

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
一科審査員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
二科審査員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四,〇〇〇円	
依 嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	八,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・四八m(一・六尺) 枠張り(縦横自由)	八,〇〇〇円	
無鑑査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	八,〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	八,〇〇〇円	

・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
 ・依頼・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)
 ・一審・二審・依頼・無鑑査の作品で、帖・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。刻字は、一m平方以内とする。
 ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)
 ・依頼以上の作品はアクリル入りとする。(第一部～第五部)
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半切額を認めない。

一科出品について

一、作品寸法

一科作品(二科会員に限る)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
C	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺) 枠(縦横自由)		
D	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺) 額(縦横自由)		
E	一・八二m(六 尺)×〇・六六m(二 尺) 額(縦横自由)		
F	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺) 額(縦横自由)		
G	二・四二m(八 尺)×〇・六六m(二 尺) 額(縦横自由)	九,〇〇〇円	
H	一・二二m(四 尺)×一・二二m(四 尺) 額(縦横自由)		八,〇〇〇円
I	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五 尺) 額(縦横自由)		
J	〇・九一m(三 尺)×一・二二m(四 尺) 額(縦横自由)		
K	二・二二m(七 尺)×〇・七〇m(二・三尺) 額(縦横自由)		

・十五歳から二十一歳(平成九年四月二日生まれから平成十六年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五,〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない 十八歳以上は要年会費)
 ・作品寸法は右記の通りとする。
 ・本年度もG「二・四二m(八尺)×〇・六六m(二尺)」は縦横自由とする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。(但し、審査終了後となります)
 ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

二科出品について

一、作品寸法

二科作品(準会員二科公募)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 枠(縦横自由)	
B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 枠(縦横自由)	七,〇〇〇円

・十五歳から二十一歳(平成九年四月二日生まれから平成十六年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五,〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない)
 ・作品寸法は右記の通りとする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横二m。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。(但し、審査終了後となります)
 ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) については半切額を認めない。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
 ・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十九回 中日書道展出品について（取扱店の皆様へ）

●書類搬入

・所定の出品票を四月十七日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。
 (一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)

・新規出品の十五歳から二十一歳(平成九年四月二日生まれから平成十六年四月一日生まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。
 ・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。
 ・書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱店に委託してください。
 ・依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品―五月九日(木)午前十時～午前十一時三十分 名古屋伏見 電気文化会館五階に搬入。

●展覧会の搬入・搬出について

P8の日程表、搬入・陳列・搬出スケジュールをご確認下さい。

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。

・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依嘱はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

●取扱店番号について(今回より導入)

・出品票の取扱店番号欄に左記の番号をご記入下さい。

取扱店名	取扱店番号
吸月堂	11
大玄堂	12
書遊川口春霞堂	13
小松表具店	14
石黒五雲堂	15
書遊平野筆墨堂	16
浅井梧竹堂	17
西川堂森表具店	18
伊藤大林堂	19
加藤長寿堂	20
菊屋商店	21
名古屋ホウコドウ	22
青柳堂	23
創源工房	24
金陽堂表具店	25
應天堂	26
名古屋キョー和	27
岡本頌文堂	28
上記以外の取扱店	50

〔作品取扱店〕

- 浅井梧竹堂 〒四二〇〇三三 名古屋市西区あし原町六八一 電(〇五二)五〇四二七〇三
- 石黒五雲堂 〒四二〇〇四三 名古屋市中区豊国通四一四六 電(〇五二)四二一七八六二
- 伊藤大林堂 〒四六〇〇〇四 名古屋市名東区香南一五〇七〔香南一五〇七〕 電(〇五二)七七六一八八一
- 永楽堂 〒四四〇〇四四 西尾市永楽町四一〇 電(〇五六)三五四二〇五三
- 株 應天堂 〒五〇一〇二七 岐阜市下鶴飼一四六八 電(〇五八)二三九一五二〇〇
- 株 岡本頌文堂 〒五〇〇〇八四 四日市市北町三一四 電(〇五九)三五二一六〇一〇
- 魁盛堂 株 〒四二〇〇三三 名古屋市西区押切二二二一三 電(〇五二)五二一三二二一
- 加藤長寿堂 〒四二〇〇〇九 名古屋市上米野町四二四〔苗尾F1B室〕 電(〇五二)四五一四七五一
- 株 伽藍 〒四二〇〇二二 名古屋市中区大須三一八一〇 電(〇五二)四二二七七七一
- 株 菊屋商店 〒四二〇〇〇七 名古屋市中区新栄二一四六 電(〇五二)四一一一四四五
- 株 吸月堂 〒四二〇〇四四 名古屋市中区清水二二二二二 電(〇五二)九三一六九四八
- 金陽堂表具店 〒四二〇〇〇七 豊田市久保町三一二七一 電(〇五六)五三二一〇八六三
- 小松表具店 〒四二〇〇〇三 小牧市東二一五四四 電(〇五六)八七五二〇二八一
- 書遊川口春霞堂 〒四二〇〇〇三 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四四四一八〇二四
- 書遊平野筆墨堂 〒四二〇〇〇三 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四三三三三〇三三
- 株 新泉堂 〒四二〇〇〇六 名古屋市中区若鶴町三四四一 電(〇五二)九〇一〇五一四
- 株 青雲堂 〒四二〇〇〇八 安城市今本町三一五一五 電(〇五六)九八二二二三三
- 株 青柳堂 〒四二〇〇〇八 名古屋市中区栄四一八(中区役所ビルF) 電(〇五二)二五九一〇三二三
- 株 創源工房 〒四二〇〇〇四 名古屋市中区若田三一〇六 電(〇五二)六二九一五〇三五
- 株 荘文堂 〒四二〇〇二七 知多市新知宝泉坊三〇一 電(〇五六)二五五二〇五一七
- 株 大玄堂 〒五〇〇〇六九 岐阜市須賀一八二二五 電(〇五八)二七一二六六二
- 株 名古屋キョー和 〒四二〇〇〇八 名古屋市中区栄四二一〇(小浅ビル2F) 電(〇五二)二六三一九四〇一
- 株 名古屋ホウコドウ 〒四二〇〇〇三 春日井市八事町一一九〇一三二三 電(〇五六)八八九一七七八八
- 西川堂森表具店 〒四二〇〇〇三 一宮市下田二一四二二五 電(〇五八)六七二一三六二九
- 株 松屋紙店 〒四二〇〇〇六 半田市清水北町六三 電(〇五六)九二一一二五七二

第六十九回 中日書道展 日程表

二月二十一日	木	書類発送	中部日本書道会本部	午前九時半～午後三時
四月 十二日	金	書類(取扱店へ)		

十七日	水	書類搬入(業者) 本部へ	中部日本書道会本部	受付 午後一時～三時 作業 午後四時まで
-----	---	--------------	-----------	-------------------------

電気文化会館 東・西ギャラリー・イベントホール 五階

五月 九日	木	依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入		午前十時～午後五時
十日	金	二科・鑑査	一部・二部・三部・四部・五部	午前九時～午後五時
十一日	土	一科・鑑査		午前九時～午後三時
十二日	日	特別賞選考(依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出		午後二時半～午後五時

愛知県芸術文化センター 県美ギャラリー 八階

六月 十一日	火	審査顧問・特別出品・二科審査会員・二科審査会員・依嘱 ※1 作品搬入・陳列		搬入 午前十時～午後五時 (主任以上) 陳列 午後一時～午後五時
十二日	水	〃		午前十時～午後六時
十三日	木	〃		午前十時～午後六時
十四日	金	〃		午前十時～午後八時
十五日	土	〃		午前十時～午後六時
十六日	日	〃	第五日	午前十時～午後四時
十八日	火	〃	作品搬出① 作品搬出②	午後四時～午後五時十五分 搬出 午前九時半～正午

電気文化会館 東・西ギャラリー 五階

六月 十日	月	無鑑査作品搬入・陳列(第一部) (第一部入賞作品を含む)		搬入 午後一時～午後五時 陳列
十一日	火	〃		午前十時～午後六時
十二日	水	〃		午前十時～午後六時
十三日	木	〃		午前十時～午後六時
十四日	金	〃		午前十時～午後六時
十五日	土	〃		午前十時～午後六時
十六日	日	〃		午前十時～午後三時 搬出 午後三時～午後五時

名古屋市民ギャラリー栄 八階

六月 十日	月	無鑑査作品搬入・陳列(第二部～五部) ※2 (第二部～五部入賞作品を含む)		搬入 午後一時～午後五時 陳列
十一日	火	〃		午前九時半～午後六時
十二日	水	〃		午前九時半～午後六時
十三日	木	〃		午前九時半～午後六時
十四日	金	〃		午前九時半～午後六時
十五日	土	〃		午前九時半～午後六時
十六日	日	〃		搬出 午後四時半～午後六時 ※ただし部屋からの搬出は午後五時

名古屋博物館 三階

六月 十七日	月	一科作品搬入・陳列		搬入 午後一時～午後五時 陳列
十八日	火	〃		午前九時半～午後五時
十九日	水	一科展覧会		午前九時半～午後五時
二十日	木	〃		午前九時半～午後五時
二十一日	金	〃		午前九時半～午後五時
二十二日	土	〃		午前九時半～午後五時
二十三日	日	〃		午前九時半～午後五時
二十四日	月	休館日		
二十五日	火	一科作品搬出・二科搬入 二科陳列		一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入 午後二時～午後五時 陳列
二十六日	水	二科展覧会		午前九時半～午後五時
二十七日	木	〃		午前九時半～午後五時
二十八日	金	〃		午前九時半～午後五時
二十九日	土	〃		午前九時半～午後五時
三十日	日	〃		二科 午後三時～午後五時 搬出

※1 創立八十五周年記念特別展示
 ※2 第六十九回中日書きぞめ展上位作品(八十五点)を展示
 ※授賞式・祝賀会 六月十六日(日) ナゴヤキャッスル

中日書道展 事務局業務

	担 当 部	作 業
1	総 務 部	遺作出品依頼
2	庶 務 部	審査員等辞令交付
		審査依頼
		来賓招待
3	第1・第2企画部	特別展等
4	経 理 部	審査時昼食手配
		展覧会関係経理
5	会 員 部	各部補助
6	第1・第2事業部	展覧会要項・事務分掌・出品票等作成
		中日展運営委員会
		審査会・展覧会会場使用打ち合せ・次年度申し込み
		審査会・展覧会会場設営（展示パネル・看板等）
		中日展反省会
その他展覧会関係作業		
7	研 究 部	各部補助
8	教 育 部	各部補助
9	褒 賞 部	賞品賞状準備・揮毫・袋詰
		授賞式
10	渉外宣伝部	後援・共催申請
		ポスター・案内状作成
		出品要項等発送（他部とも連携）
		新聞広告原稿
11	記録統計部	写真撮影・記録（会場風景など）
		審査員写真撮影
		受賞作品撮影
		受賞者写真撮影
12	編 集 部	展覧会原稿依頼・編集
		評論文依頼・編集
13	厚 生 部	祝賀会
14	第1・第2 I T 部	書類搬入集計
		地域版掲載データ作成
		入賞作品CDROM等作成
		展覧会データ作成

事務分掌記載部業務

書類搬入整理部	展覧会要項・事務分掌・出品票等発送
	入賞通知・入賞目録作成

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2018年 チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に200万
東海テレビ福祉文化事業団に100万 寄託
各支部より各県の中日新聞經由にて 80万



◆中部日本書道会が200万円 中部日本書道会(名古屋市中村区)の関根玉振理事長(写真左から3人目)らは10日、名古屋市中区の中日新聞社会事業団事務局を訪れ、年末助け合い運動に200万円を寄託した。東海3県の会員約4100人から寄せられた同会の「愛の募金」。

中日新聞 2018.12.11(火)

募金参加者ご芳名

樽本 樹邨	天野 白雲	鈴木 立齋
安藤 滴水	大池 青岑	武内 峰敏
鬼頭 翔雲	大島 緑水	小林 景
関根 玉振	梶山 夏舟	波切 童州
伊藤 仙游	片山 清洲	馬場 紀行
岡野 楠亭	加藤 裕	原田 凍谷
松野 英風	川崎 尚麗	平松 采桂
後藤 啓太	木俣 紫香	古川 昇史
	工藤 俊朴	松浦 華苑
	水谷 海越	村瀬 俊彦

山内 江鶴	山際 雲峰	山本 雅月	横井 宏軒	伊藤 曉嶺	佐野 翠峰	柘 英峰	伊藤 昌石	黒田 玄夏	後藤 汀鶯	土屋 陽山	中林 露風	平松 紫雲	松永 清石	安藤 秀川	井野 吟紅	今井 仙童	上田 賦草	磯合 深淵	加藤 子華	神谷 美舟	木戸 竹葉	倉重 栞石	権田 穂園	近藤 素光	近藤 浩乎	佐々木 崑邦	高橋 秀箭	武山 昂石	武山 翠屋							
田中 白雲	津田 秋月	坪井 景照	寺田 樹風	富田 栄楽	中島 龍溪	中野 玉英	中村 秀峰	中村 立強	堀場 隄南	三神 榮軒	森 清暉	横山 夕葉	渡邊 笙鶴	天野 勢子	安藤 鵜舟	磯和 鴻東	位田 芙千	片岡 秋華	加藤 松翠	小林 静葩	柴田 秋水	杉江 秀城	鈴木 瑞象	高木 曾水	梅 春泉	戸谷 喜泉	内藤 大旺	中川 京童								
西堀 少苑	服部 祥石	稗田 美苑	藤本 鷗舟	籙瀬 舟香	山下 和芳	相川 千涯	相崎 紫憬	青木 榮俊	青木 渚香	青木 美雲	青木 芳翠	青山 華塘	赤堀 正風	秋田 松旭	秋松 秀玲	浅井 径桜	浅井 紅鶴	浅井 紫泉	浅井 祥舟	浅井 明奈	朝岡 伸	浅野 春陽	浅野 芳柳	朝比奈 祥鳳	安達 柏亭	阿部 舟花	阿部 秀峰	天野 月清								
天野 梢華	荒川 清香	荒川 璃華	荒川 泉蓉	荒木 素園	安藤 佳舟	安藤 清香	安藤 静歩	安藤 蘇道	飯田 瑤華	飯田 天光	家田 馨子	猪飼 閑雲	生田 浪華	井口 方燕	伊佐治 祥雲	伊佐次 雪華	石井 小湖	石井 照葉	石井 昌郷	石井 昌園	伊藤 春瑤	伊藤 江麗	伊藤 紅玉	伊藤 玄圃	伊藤 玉峰	伊藤 恭子	伊藤 杏華	伊藤 和代	伊藤 綾華	市川 清陽	市川 弘子	磯貝 凄聰	磯谷 聲風	石原 清至	石原 松扇	石原 春香
伊藤 文惠	伊藤 芳香	伊藤 芳華	伊藤 玲香	伊奈 美峰	稲垣 京子	稲垣 紅春	稲垣 竹徑	稲垣 雅彦	犬飼 春灯	犬飼 游華	犬塚 玉陽	井上 香苑	井上 紫水	井上 春嶺	猪又 松峰	井深 春扇	伊吹 代美	今井 修武	今井 芝香	今井 静湖	今井 桃丘	今井 節峰	今田 紅溪	井村 耕心	入谷 霞流	岩井 榮華	岩城 みつ代	岩崎 玉楊	岩崎 史萌	岩崎 澄秋	岩瀬 紫雲	大上 憧花				
岩田 緑汀	岩永 大抱	植田 錦舟	植田 秀穂	上田 青香	上松 総子	上松 早苗	宇佐美 匠香	牛田 美泉	後田 清子	内田 翠聲	内本 久園	内山 紫泉	内山 蘭月	宇野 光峰	梅田 楊華	梅村 鶯谷	梅村 彩香	梅村 鉄明	梅村 悠徑	浦山 妙琴	江川 翠苑	江川 清翠	江口 蒼華	江口 大濤	榎本 照乃	江馬 翠峰	遠藤 紫香	遠藤 紫聖	塩谷 秀蘭	大鐘 峯子	大鐘 紫陽					

大川	澄泉	大塚	窓月	小川	秀水
大木	青嵐	大塚	裕子	奥田	蘭庭
大崎	水愁	大野	昭子	奥村	三葉
大鹿	珠翠	大野	樹抱	奥村	碧洋
大曾根弘風		大橋	幽徑	尾崎	紫光
太田	偕風	大森	香鶴	尾崎	澄光
太田	佳香	岡崎	鷗風	長村	子鴻
太田	紫翠	小笠原青華		小澤	佳路
太田	浄泉	岡田	恵鶴	尾関	楊花
太田	青華	岡田	恵香	落合	玉泉
太田	由香	緒方	津苑	尾中	杉得
太田	游山	岡田	麗峰	尾之内柳雪	
太田	葉子	岡地	紅華	小野田景月	
太田	龍峰	岡野	敬子	界外	玉桜
大竹	玄友	岡本	桃香	貝沼	春雨
大谷	万里	小川	琴風	柿本	香苑

〈一宮支部〉

平成三十年十二月十日(月)

中日新聞一宮総局へ支部長川浦碧濤氏
と支部次長鷺野紫篁氏、吉田桃花氏が
伺い、中日新
聞社会事業団
の「年末助け
合い運動に」
と一宮総局長
有賀信彦氏に
十万円を寄
託。



神谷	静苑	北川	爽風	黒田	寿水	小林	玉芙	佐藤	緑風	杉浦	鶴雲	関戸	海越	竹内	春翠	玉樹	栄香
神谷	松扇	北岡	青溲	黒川	鵬霄	後藤	幽泉	佐藤	清華	菅沼	貴香	鈴木	美智子	竹内	紫峰	玉置	尚華
神谷	采邑	岸本	静子	黒川	虚宇	後藤	文明	佐藤	水香	新海	峰永	鈴木	容華	竹内	紫燕	種田	瑞鳳
神谷	光園	木島	静月	久留島睦子	柳青	後藤	春洋	佐藤	晨麗	白柳ゆかり	紫香	鈴木	悠水	竹内	栄心	谷口	大観
上小倉積山		岸田	松峰	厨	珠路	後藤	光飛	佐藤	寛山	白井美喜子	紫香	鈴木	美都子	武井	岳峰	谷口	琇苑
鎌倉	彩風	神田	閨秀	栗本	高節	後藤	香波	佐藤	華泉	庄田	翠苑	鈴木	芳春	田口	勢望	谷利	紫鳳
金丸	翠石	川本	大幽	倉橋	高堂	小塚	祥貞	佐々木宏潤	下村	下村	繫舟	鈴木	美月	滝本	白峰	谷	鴻風
可児	長望	川本	赫汀	倉橋	高堂	小塚	祥貞	佐々木宏潤	下村	下村	繫舟	鈴木	美月	滝本	白峰	谷	鴻風
金澤	秀鶯	川村	春霞	倉橋	華仙	小塚	珠香	桜場	龍峰	下村	繫舟	鈴木	美月	滝本	白峰	谷	鴻風
加藤	碧涛	河原崎坡青		倉橋	華仙	小塚	珠香	桜場	龍峰	下村	繫舟	鈴木	美月	滝本	白峰	谷	鴻風
加藤	博子	河原	彩雲	倉田	朝華	小谷	春苑	桜井	和香	志村	松琴	鈴木	千恵	高橋	栖雲	田中	尚秀
加藤	艸舟	川出	泉麗	倉田	珪延	小島	泰子	酒瀬川	香風	志村	舟泉	鈴木	石城	高橋	栖雲	田中	尚秀
加藤	夕堤	河内	飛園	倉田	秀佳	小島	廣子	榊原	珠月	清水	澄園	鈴木	青楓	高橋	華堂	田中	修文
加藤	翠影	河田	聖翠	熊崎	北咏	小島	初美	坂井	香泉	志水	憬堂	鈴木	史鳳	高田	香坡	田中	幸香
加藤	渚蓮	川角	蘭香	久納	竹景	小島	白汀	坂井	曾鶴	清水	好流	鈴木	松厓	高根	桂祥	田中	幸江
加藤	松雲	川崎	清吟	久野	天山	小島	泰碩	坂井	香泉	志水	憬堂	鈴木	史鳳	高田	香坡	田中	幸香
加藤	秀慧	川口	由美	國島	英華	小島	千翠	酒井	光華	志水	玉華	鈴木	紅瑤	高木	清雲	田中	玉穂
加藤	紅泉	河口	霄華	工藤	茜邑	小島	雪舟	齋藤	翠苑	柴間	秀瑤	鈴木	京楓	高木	紫光	立松	鶴風
加藤	月苑	川口	紫泉	工藤	子鷗	小島	瑞柳	齋藤	翠苑	柴間	秀瑤	鈴木	京楓	高木	紫光	立松	鶴風
加藤	花畦	川浦	碧濤	葛谷	恵園	小島	真海	齋藤	禹月	柴田	玲甫	鈴木	葵風	高木	光風	榎	芳琴
加藤	永樵	河合	翠山	草野	慧泉	小嶋	岐香	近藤	由紀枝	柴田	桃花	鈴木	華瑤	高木	紅舟	榎	芳琴
勝海	芝香	河合	醉光	艸田	洋子	小嶋	真海	近藤	由紀枝	柴田	桃花	鈴木	華瑤	高木	紅舟	榎	芳琴
加地	孤握	河合	翠月	日下部みゆき		小坂	克子	近藤	芳玉	柴田	華逕	鈴木	雲峰	高井	東里	田代	春苑
片原	秀園	川合	探星	清	芳園	香村	孤竹	近藤	宏子	柴田	厚実	鈴木	功子	高井	香園	田代	春苑
片岡	蘭芳	川合	玄鳳	清沢	華舟	河村	黄園	近藤	梅鶯	柴口	鶴泉	鈴木	愛	田尾	穂昂	田島	不染
梶山	盛涛	河合	桂舟	久徳	蓬香	幸村	溪雪	近藤	延子	篠田	祥濤	菅生	攝堂	千田	京華	武山	朝路
加島	遊舟	荻谷	伸風	木村	明峰	小宇佐久美	泉葉	近藤	晴翠	式守	白萩	杉山	瓊川	仙石	祥香	武野	桂華
梶田	月湖	荻田	遵松	木村	潮香	小池	玲翠	近藤	翠香	三田	惠翠	杉本	京扇	世古口大虚		武内	幽汀
笠原喜美江		龜山	雪峰	木村	霞月	小池	静光	小林	祥鶴	澤田	明琴	杉坂	育子	瀬古	麗峰	竹内	梅泉
籠瀬	提花	龜井	小琴	木全	春琴	桑原	静光	小林	祥鶴	澤田	明琴	杉坂	育子	瀬古	麗峰	竹内	梅泉
加古	仔春	神谷	綠泉	北村	光苑	黒柳	葉舟	小林	紅琳	沢井	鴻風	杉浦	仁美	関根	蒼玄	竹内	友康
加古	松泉	神谷	素景	北野	春艸	黒野	芝香	小林	恵風	佐山	美楓	杉浦	琇鈴	関根	玉翠	竹内	清泉

田村	泉舟	寺島	春恵	永井	青楓
為水	剛	寺嶋	三和	永井	友理
多和田	墨濤	寺本	陽春	中川	貴舟
千葉	晨翠	堂前	蒼雲	中川	翔鶴
中条	彰山	嶋澤	澄江	中川	瑞玉
塚田	俊可	戸崎	翠虹	中川	星光
塚本	桃里	戸田	青楓	中川	麗香
築山	光子	朽久保	律子	長坂	多津子
築山	みなみ	戸松	香苑	永坂	抱月
津田	松鶴	戸松	紅翠	中坂	緑風
土屋	春聲	富田	華妍	中島	祥園
土屋	小苑	富田	青邑	永瀬	紅蘭
都築	心扇	富田	蘭月	永瀬	珠香
都築	聖園	外山	悠汀	永田	桂華
角田	和泉	鳥居	竹泉	永田	美幸
坪井	白汀	鳥居	柳城	中田	和香
坪沼	明美	永井	恵子	永谷	加代子
寺尾	桑林	中井	港星	永谷	恵子

〔半田支部〕

平成三十年十二月十一日(火)
 中日新聞半田支局へ支部長山内江鶴氏
 と支部次長平
 松采桂氏、事
 務局長田中修
 文氏が伺い
 「年末助け合
 い運動に」と
 岩佐和也支局
 長代理に十万
 円を寄託。



野田	はる美	林	春翠	平原	皓月	本間	翠眉	三島	濟美	村瀬	竹風	安田	雪篁	吉川	清軒	浅野	蛭雪
野田	虹園	林	紫州	平野	芳碩	本間	秀岳	美希	昌風	村瀬	季舟	安田	翠嵐	山脇	三枝	朝井	美佐子
野田	佳楊	林	紫香	平野	美扇	堀部	悠華	見神	恵峰	村上	史麗	保田	翠溪	山本	史鳳	浅井	清泉
野倉	梅芳	林	華泉	平野	公慎	堀部	恵苑	三浦	景波	向山	青泉	矢島	潮香	山本	香川	浅井	欣司
野口	志園	早川	和子	平賀	秀園	堀場	秀峰	丸山	聖峰	三輪	晴風	森本	夏溪	山田	流芳	青山	佳白
野口	紀代子	幅上	蘭香	平岡	妙紅	堀田	花	松元	彩華	三輪	三麗	森部	智榮	山田	有華	青山	和生
庭田	紫光	羽根	寿子	平岩	美風	堀田	恵香	松原	紫園	宮本	寿草	森下	久美	山田	白陽	青木	涼虹
丹羽	藍水	花井	明琴	平井	三千代	星野	蘭雪	松野	良園	宮原	玲舟	森口	晶月	山田	蹋雲	青木	来夢
丹羽	裕	花井	清水	日比野	妃扇	古田	秀紅	松田	樹幹	宮田	清風	森	隆城	山田	千鶴	青木	美洲
丹羽	茜麗	服部	青巒	日比野	寿翠	古川	侃司	松田	秋芳	宮崎	富山	森	實年子	山田	素光	青木	芝翠
丹羽	春蘭	服部	春逕	坂野	竹童	藤原	郁代	松田	華月	三宅	紀璋	森	冬華	山田	梢心	愛澤	珠翠
仁田	脇京華	服部	華泉	阪野	渚月	藤野	真徳	松田	鶴鵬	宮	希蓉	森	雪華	山田	秀謙	渡辺	悠記子
西村	松花	波多野	香葉	阪野	小波	藤田	寒樹	松下	武義	美濃羽	城開	森	清葉	山田	紅照	渡辺	北嶺
西垣	美茜	羽田	野江楓	伴	晋水	藤澤	暎秀	松下	聖心	皆川	嗣恵	森	笙韻	山田	晞予	渡辺	慶心
西	恵香	長谷川	幽岱	坂	九塔	福西	史呂	松下	嬉春	三橋	紅月	森	紅雀	山田	鶴玲	渡津	房江
新山	翠香	長谷川	滴水	原田	南鳳	福谷	旭濤	松下	華邨	溝口	閑石	森	絹泉	山崎	富泉	和田	玉繡
新美	秋鳳	長谷川	眞山	原田	清尚	福田	徑揚	松澤	昂永	溝口	渺然	森	京華	山口	律舟	鷺野	紫篁
長屋	天虹	長谷川	春香	原田	圭竹	福島	有何	松佐	古溪水	溝口	大仙	桃井	祥谷	山口	幸子	鷺津	岱嶺
中村	峰泉	長谷川	恵玉	原賀	瑞芳	福岡	林泉	松崎	青漣	溝口	純華	物部	浩子	山口	裕子	若山	峰滢
中村	曾南	橋本	成良	早野	江郷	深谷	恵庭	松岡	永律	水野	美千	元祐	秀蘭	山口	蕙世	米田	厓陽
中村	清岳	羽柴	苔谷	早瀬	澁	深津	洋子	松浦	瑞月	水野	清花	望月	春燕	山岸	邦山	吉村	美雪
中村	翠雲	橋詰	桃邨	林田	虎峰	深田	芳香	松井	香代子	水野	さと子	毛利	恵風	山川	昌泉	吉原	純芳
仲村	春水	萩野	琴苑	林	美枝子	広田	陽水	間瀬	麗雪	水野	泉美	毛利	曉草	山川	窓楓	吉田	美影
永平	巳旺子	野村	揚月	林	柏堂	廣澤	光雪	増田	春暉	水谷	敏子	村松	紫雲	山内	香霖	吉田	清城
中西	草城	野村	清涼	林	大鳳	廣澤	秀琳	増田	蘭苑	水谷	有志	村林	龍鳳	山内	香霖	吉田	江楓
中西	笙月	野々垣	清城	林	如華	平光	朱扇	前田	千登世	水田	珪華	村田	光柊	矢田	紀香	吉田	一峰

浅野 清澄	池田 朔月
浅野 揺草	池田 秀翠
安達 啓子	井桁 翠咲
足立 耕堂	池野 登世
阿部 光泉	石井 玉華
阿部 牧香	石泉 松風
荒井 游舟	石川 加翠
荒木 桃花	石川 華泉
安藤 香波	石川 彩香
安藤 範香	石川 清曉
安藤 幸恵	石川 恵美
飯田 寿泉	石川 裕彩
飯田 泰郷	石川 龍泉
井内 溪舟	石川 玲香
池田 絹子	石川 麗香

石倉 桜舟	伊藤 韶光
石黒 煌花	伊藤 清雅
石田 茜華	伊藤 井翠
石田 李舟	伊藤 たつゑ
石塚 弘子	伊藤 桃苑
石橋 悠川	伊藤 美泉
石原 宗久	伊藤 美代子
石原 千砂子	伊藤 弥生
石本 麗水	伊藤 由美
泉 好子	伊藤 蘭徑
磯貝 碧雲	伊藤 蘭香
磯部 玉蘭	井戸本 瑞心
磯部ユリ子	稲垣 輝彩
板倉 香淵	稲垣 喜由
板倉 虹華	稲垣 泗郷
兼正	稲垣 舞夏
市川 兼正	稲葉 翠泉
市川 香雪	稲吉 邦子
市川 純慧	稲吉 小夜子
市橋 文親	犬飼 美晴
伊藤 文野	犬塚 八重
伊藤 英美	井野 華水
伊藤 玉燕	井上 鈴子
伊藤 恵子	井上三保子
伊藤 谿石	井上 ゆい
伊藤 紅彩	伊吹 紅鳳
伊藤 鴻仁	牛場 霽風
伊藤 紅葉	宇佐美 待月
伊藤 彩秀	鶴飼 清波
伊藤 茂	鶴海 青汪
伊藤 紫風	内川 昌子
伊藤 紫鳳	内田 和舟
伊藤 秀英	内田 昇月
伊藤 春翠	内田 翠陽

内山 雅舟	大野 艶友
采女 紅楓	大野 勝子
宇野 央子	大野 琴舟
梅本 留美	大野 瞬玲
江川 幸甫	大野 馨泉
江口 幽岳	大野 早加
江崎 秋泉	大野 彩
江崎 婦沙子	大野 蘭香
榎田 瓊翠	大場 敏充
榎本 翠峰	大橋 南風
塩谷 華舟	大畑 麦川
大石 窓雪	大村 瑞苑
大鐘智美未	大矢 翠華
大久保春鼎	大藪 翠園
大河内淳風	岡 幸秀
大河戸柳光	岡崎 志虹
大寄 露光	岡島 淡雪
大澤 雅舟	岡田 愛子
大沢 真弓	岡田 志保
大鹿 恵華	岡戸 保子
大島健太郎	岡村 延子
大島未紗子	岡本 芝苑
大嶋由美子	小川 華葉
尾関 明美	小野田 晃志
尾崎 涼舟	小野田 美晴
尾崎 美恵子	小野田 美晴
小倉 壽子	鏡 千裕
奥村 順子	鏡 留奈
勝山 滋紅	掛布 江華
加藤 生子	鏡 留奈
加藤 喜峰	加藤 眉翠
加藤 杏華	加藤 忠之
加藤 幸穂	加藤 澄香
加藤 秀花	川北 博子
川本 青柎	川口 花園
川村有紀奈	川口 千代子
工藤 尚篁	川口 千代子
久保田 寿仙	神谷 秀翠
久保田 父子	神谷 芳翠
熊谷 弦謠	神谷 春谷
熊崎 昭子	神戸 春谷
熊田 梅久	神戸 笙詩
久米 水聲	木澤 麗川
倉科 清伶	河合 昌子
倉光 枝芳	河合 澄山
栗木 美楓	河合 澄香
栗山 幽香	北川 博子
樽林 春翠	北川 玉鳳
黒岩 翠華	鬼頭 冬扇
黒柳 知里	鬼頭 豊寧
小池 清子	木野瀬 陽光
小石 順	木村 輝扇
小泉 路子	木村 和象
小泉 路子	清田 東方
小泉 路子	河村 典子

〈西三河支部〉

◇年末助け合いで10万円
 中部日本書道会(名古屋市中村区)西三河支部は3日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に10万円を寄付した。



呼び掛けに「社会に役立てて」と話した。

中日新聞 2018.12.4(火)

〈東三河支部〉

会員の善意10万円
 中部日本書道会支部
 中部日本書道会東三河支部は10日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に10万円を寄付した。



毎年冬の取り組みで、支部会員百四十人に寄付を募って集めた。林田虎峰支部長(古川侃司(つよし)次長、大河戸柳光次長、村井康山)

次長が豊橋市の中日新聞豊橋総局を訪れ、栗田秀之総局長に手渡した。写真。

中日新聞 2018.12.13(木)

小出 和香 後藤 柳月 子安 杏庭
 郷 瑤春 小戸森麻利子 小谷津千津子
 甲谷 千樹 小西 美紀 小山 峯雲
 甲谷富美子 小早川恵祥 近藤 明彦
 河野 京子 小林 敬子 近藤 瑛月
 鴻巣 玉兔 小林 青華 近藤 花藍
 神山 彩華 小林 雪晨 近藤 詠谷
 小澤 松煙 小林 稚泉 近藤 翠嶺
 小島 華扇 小林 千鶴 近藤 清月
 小島 幸波 小林 峰玉 近藤 星蘭
 小島 湖山 小林 雅子 近藤 瑤華
 小島 瑞香 小林 由泉 近藤 嘉江
 小島 大立 小林 洋子 近藤 玲翠
 古塚 璃幸 小松 月泉 齋藤 矧川
 後藤 智明 小松 翠篁 齋藤 清川

〔濃飛支部〕

平成三十年十二月十三日(休)に支部長の石原馨風と支部事業部長の林幸湖が中日新聞中津川通信局を訪問しました。中津川通信局の福本正則通信局長に義援金十万円を寄託。

福本通信局長には「年末助け合い義援金」にて社会福祉事業に有効に使用しますとのお話を頂きました。



酒井 悠泉	志知 隆道	杉本 扇鈴	高橋千代子	内藤 陽翠	野々垣煌玉
坂川 翠翹	志津野穂夏	杉山 恵子	高松 彩月	野村 繁子	野村 光洋
榊原 観峰	篠田 仰信	杉山千鶴子	高山さち子	野村 聖園	野村 光洋
榊原 洸苑	篠田 瑞芳	杉山 秀夫	滝本 柳烟	野村 美翔	野村 光洋
榊原 悠園	篠原 久祥	杉山 洋子	竹内 重則	野村 幸聲	野村 光洋
坂部 青嶂	柴田 恵子	鈴木 花郎	竹内 深風	野村 幸聲	野村 光洋
坂井 花凜	柴田 瑞香	鈴木 京子	竹内 翠邱	野村 幸聲	野村 光洋
桜井 光雲	柴田 道子	鈴木 香葉	竹内 敏夫	野村 幸聲	野村 光洋
桜井 清瑩	澁谷 弘峯	鈴木 眞壽	坪井 英哲	野村 幸聲	野村 光洋
峪口 紅霞	嶋津 智楊	鈴木 青華	坪井 掛溪	野村 幸聲	野村 光洋
佐々木汀安	清水 省子	鈴木 眞華	鶴見 常風	野村 幸聲	野村 光洋
佐々木博山	清水 眞美	鈴木 清華	鶴見 香翠	野村 幸聲	野村 光洋
笹本 都和	清水 由美	鈴木 千晴	鶴見 蒼雲	野村 幸聲	野村 光洋
笹本 菜月	志村 峯遠	鈴木 美峰	寺尾 青波	野村 幸聲	野村 光洋
佐治 空谷	志村 玲香	鈴木 誠人	寺岡 春蘭	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 悦子	庄野 照香	鈴木 彬生	寺田 明子	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 幸泉	白井 美翠	須田 静波	寺島 祐峰	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 紅蘭	白塚山山城	関 春香	土居 秀栖	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 灑水	神藤 恵翠	関 翠虹	土居 雅子	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 彩柳	神藤 紫穂	関 吟香	藤堂 弘風	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 青耀	杉浦 悦子	関 光代	藤山 翔雅	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 敬顕	杉浦 薫水	曾我 美舟	遠山 正幸	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 桃華	杉浦 敬山	曾根 精華	遠山 柳恵	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 芳泉	杉浦 幸子	祖父江京華	遠山 春美	野村 幸聲	野村 光洋
佐藤 爽翠	杉浦 富峰	大門 雅泉	徳倉 禾風	野村 幸聲	野村 光洋
澤田 青草	杉浦 芳苑	大田 雅泉	戸田 翠徑	野村 幸聲	野村 光洋
澤田 未幸	杉浦 陽	田中 春華	戸田 雅子	野村 幸聲	野村 光洋
三野美恵子	杉江 花城	田中 美香	徳倉 禾風	野村 幸聲	野村 光洋
塩野谷厚志	杉坂 采和	田中 春華	徳倉 禾風	野村 幸聲	野村 光洋
塩原 翠山	杉田 恵情	田中 春華	徳倉 禾風	野村 幸聲	野村 光洋
六戸 春月	杉田 樹石	田中 春華	徳倉 禾風	野村 幸聲	野村 光洋

〔北勢支部〕

平成三十年十二月十八日(火)中日新聞四日市支局へ井口方燕支部長と伊藤伸亨支部次長が伺い、「年末助け合い運動に」と桜井孝雄支局長に十万円を寄託。



本紙社会事業団に10万円寄託 中部日本書道会中南勢支部



中日新聞 2018.12.21(金)

中部日本書道会中南勢支部は二十日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に、会員から集めた十万円を寄託した。高根桂祥支部長ら三人が津市鳥居町の中日新聞三重総局を訪れ、石川保典総局長に目録を手渡した。

〔中南勢支部〕

- 長谷川緑光 馬場 樟蔭 林 尚志
- 畑 裕子 馬場 青邨 林 翠竹
- 波多野朱芳 浜島 緑風 林 澄江
- 服部 和子 濱田 清華 林 誠哉
- 服部 芝華 濱田 芳園 林 節香
- 服部 修江 浜野 春瑛 林 泰伯
- 服部 瑞花 早川 緑園 林 柏亭
- 花井 紅霞 早川 林花 林 由美
- 花井 蘭徑 林 皓月 林 和苑
- 馬場 紅雲 林 高風 原 香風
- 幅 早苗 林 慈恵 原 彩霞

- 原田 賀代 藤井 和彦 牧野 瑞風 水谷 鳳月
- 原田 峰葉 藤江 映春 牧野 瑞葉 水谷 紅翠
- 原田 恵子 藤木由美子 牧野 清波 水野 菜月
- 坂野 霞汀 藤戸 絢春 増井 希 水野 昌花
- 坂野 幸子 藤原 清泉 増田 紅葩 水野 白映
- 坂野 みゆき 二村 東翠 町田 清芳 溝口 春華
- 樋口 白扇 船橋 幽泉 松居 玉華 源口 貴子
- 彦坂 末子 古田富美子 古澤 清艸 見並 春翠
- 彦坂 翠花 古澤 清艸 松居 光子 八木 清峭
- 久田 光玉 古橋 紀風 松岡 瓊玉 八木 治代
- 久田 千祥 古橋 里子 松岡 蘭毫 柳生 江樹
- 日高 真弓 古橋 勝櫻 松田 清美 安井 翠恵
- 等 綾雪 紅谷 碧水 松田 穂輝 安田 春麗
- 日比野汀華 星川 朝香 松田 典子 安田 由琳
- 星野 瞳 星野 仙燁 松永 紫豊 八谷 白仙
- 星野 律花 星野 律花 宮部政代美 柳瀬 緑風
- 細江 朋杏 細江 朋杏 三輪 彩光 柳瀬 貴美
- 平野 遊古 堀田 智洋 松原 好子 矢吹 喜泉
- 平野 京子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 平林 正子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 平林津賀子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 平松 和子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 平松 圭鳳 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 平松 千代子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 深草 華堂 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 深谷 紅蘭 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福井 笙燿 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福井 芳子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福井 節子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福應 節子 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福島 翠苑 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福田 祥光 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福田 ヒナ 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福原 秋冷 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子
- 福山 恵山 堀田 智洋 松原 好子 山本 種子

〔岐阜支部〕

今年も、公益社団法人中部日本書道会、岐阜支部から、中日新聞社会事業団へ、児童、医療、災害地義援金等、お役立てできればと、十一月十九日(月)に支部長坪井景照と事務局担当早川修が、十万円をお届けしました。



吉原 愛璃 若杉 美香
吉村佳代子 若松 翠泉
芳村 清苑 脇田 玉波
吉村真由美 和田 皓月
米田 啓子 渡邊 香蘭
米津 美華 渡邊 水香
(十二月二十五日(火)本部到着分までを掲載)

団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に



第69回 中日書きぞめ展

会期 平成31年3月16日(土)～3月17日(日)

会場 ナディアパーク 2階 アトリウム 名古屋市中区栄三丁目18-1

授賞式 平成31年3月17日(日) 午後2時 ナディアパーク 3階 デザインホール

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限りです。

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通
(申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別紙)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び

選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

(承認後ご連絡いたします)

ので振替用紙にてお振込み下さい。

担当 教育部

公益社団法人 中部日本書道会推薦教室

指導者

第●●●号

第●●号

公益社団法人 中部日本書道会

推薦証

右の者は書道並に書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名(姓) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	〒
ふりがな	
指導者名(申請者名)	中部書道展 資格 資
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 平成 年 月 日
交付年月日 平成 年 月 日
交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

会費未納の方へお願い

年度末も間近となつてまいりました。平成30年度会費未納の方は、至急お納め下さい。(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)

本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部までご一報下さい。

052(583)1900

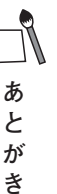
新入会員紹介(十・十一・十二月分)

●西三支部 岡田眞智子 中嶋紀久代

訃報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

- 8月22日 正会員 深草華堂氏 享年93
- 9月29日 参 与 佐藤東海氏 享年86
- 9月29日 準会員 水野笑子氏 享年82
- 10月1日 正会員 松岡 清氏 享年82
- 10月13日 評議員 桑原静光氏 享年67
- 10月15日 正会員 横山明子氏 享年69
- 10月23日 正会員 野田蘭月氏 享年90
- 11月12日 評議員 柴山みなみ氏 享年92
- 11月14日 評議員 林 柏堂氏 享年90
- 11月20日 評議員 貞夫様 享年90
- 12月6日 評議員 中井港星氏 享年85
- 12月18日 評議員 齋藤翠苑氏 享年71
- 評議員 林 寶郎氏 享年71



あとがき

明けましておめでとうござい

ます。中日会報第一九一号をお届け

いたします。御代替わりの年初に閑根理事

長には、平成の三十年間を振

返つての年頭所感をお書き頂き

ました。中日書道会として『書』

を積極的に対外に対してアピ

ールしてきた三十年間ではなかつ

たかと思ひます。歴史の積み重

ねの重さ重要性を感じます。

名誉副会長安藤滴水先生の文

部科学大臣表彰は、昨年に引き

続きのお慶びでございます。お

めでとうございました。

そして第六十九回中日書道展

の要項が決まり、ご案内させて

頂いております。

会員皆様の、ご出品・展覧会

運営でのご協力が何より必要と

なります。展覧会の成功に向け、

ホームページアドレス
http://www.cn-sho.or.jp

メールアドレス
info@cn-sho.or.jp

編集部も、皆様のご協力を頂

きながら、新たな情報発信に努

力してまいります。(編集部)